



第54号

発行所
三軒屋駐屯地協力会
三軒屋駐屯地O B会

新年のご挨拶

三軒屋駐屯地司令
2等陸佐 石嶋 孝至



新年あけましておめでと
うございます。謹んで新年の
お慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、
元旦に発災した令和6年能登
半島地震に伴う災害派遣活動
に始まり、訓練・業務等が
続いた多忙な1年間でした。
駐屯地行事については、3月
の観桜会、8月のふれあい納
涼盆踊り大会、10月の駐屯地
創立記念行事を開催でき、地
域の皆様方との触れ合いが一
層深まったと感じています。
また、駐屯地協力会、駐屯地
O B会、各協力団体等による
ご協力、駐屯部隊各隊員の活
動により駐屯地を運営するこ
とができました。この場を借

りて改めて感謝申し上げます。

本年も戦後最も厳しいと
言われる安全保障環境は継続
し、日本周辺における中国、
北朝鮮、ロシアの活動はより
活発化し緊張の度合いを深め
ています。これに対処するた
め防衛省としては防衛力整備
を急速に進めており、駐屯各
部隊は能力構築支援等を通じ
て同盟国・同志国との信頼醸
成を図るとともに、想定され
る事態に備えて日々の訓練・
業務に励んでいます。そうし
た国内外での各種事態に対応
するため、部隊活動を支援す
る基盤となるのが駐屯地であ
り、そのための諸施設や業務
等をより一層充実させていき
たいと考えています。また、
地域の皆様にとってより親し
みのある駐屯地となるよう
努力してまいります。

今年が皆様にとって幸多い
年であることを祈念して新年
のご挨拶とさせていただきます。

三軒屋駐屯地協力会
会長 長峰 襄



明けましておめでと
うございます。

穏やかな元日を迎え皆様
つつがなき新年を迎えられた
こととお慶び申し上げます。
旧年中は駐屯地協力会に
ご支援ご協力を賜り誠にあり
がとうございます。
日本は今年戦後80年を迎え
ました。戦争のない平和な80
年は諸先輩方の血の滲むよう
な努力と二度と戦争はしない
という固い決意により保たれ
てきたのだと思います。
他方世界には大きなうねり
が押し寄せてきているようで
す。ロシアとウクライナの戦争
は1000日を超え、パレスチ
ナ・イスラエルの紛争等々、多
くの生々しい戦いが日々継続
し、我国周辺でも中国の実力に
よる現状変更や挑発的な海洋
進出が繰り返されております。
一方、アメリカではトラン
プ氏が大統領に選出され、韓
国では戒厳令が布告されその
大統領が弾劾され拘束令状が
出されるなど混迷を極めてい
ます。他にも内政が不安定な

国が多く存在し何がおこつて
も不思議ではない混沌の時代
に突入したようでもあります。
この様な世界情勢の中に
あって平和を維持することは
それ相応の覚悟と代償が必要
となることでしょう。
何時の時代も平和はただで
は得られてはいけません。

そのことを再認識して今第
一線で我が国の平和のため活躍
している自衛隊にその任務と
責務に相応しい処遇を提供す
るのは当然のことと考えます。
そして私たちは「守るに足る
国民であり国家であるか」を顧
みなければならぬでしょう。
最後に本年は幸多き平和な年
であることを祈り申し上げます。
三軒屋駐屯地O B会
会長 長川 良成



新年明けましておめでと
うございます。

令和7年の新しい年を迎えら
れ謹んでお慶びを申し上げます。
新しい年を迎え、自衛隊の
使命は増々重要になってい
ると強く感じております。
国内では毎年の様に起こる自
然災害への対応任務を遂行し
ている中で、国外については、地

域によってさまざまな課題や変
化が見られます。戦況が激化、
長期化しているロシアとウクラ
イナ、イランとその周辺国の緊
張、イスラエルとパレスチナ問
題、アサド政権崩壊後の今後の
シリアの動向、中東情勢と依然
として影響を及ぼしています。

日本周辺においては、北朝
鮮の核ミサイル開発、中国の
軍事的な活動が懸念され、こ
れに伴い、自衛隊の役割が強
化されています。自衛隊は国
連の平和維持活動や人道支援
活動に参加して国際社会にお
ける日本の役割を果たしてお
り、今後の役割として他国と
の連携を強化し、共同訓練や
情報共有を進めることで、地
域の安全保障に貢献すること
が期待されます。三軒屋駐屯
地においても昨年第三〇五施
設隊長以下35名の隊員がカン
ボジア王国に派遣され、UN
TPPは任務を完遂し無事帰
国、能力構築支援は2月初旬
帰国予定で現在任務遂行中と
のこと、本当にお疲れ様です。
我々O B会は隊員皆様に寄
り添い絆を大切にしておし
ても支えになるよう活動を続
けてまいります。
最後になりましたが、皆様の
ご健康とご多幸を心よりお祈り
して新年のご挨拶と致します。
本年もどうぞ宜しくお願
い申し上げます。

部隊長から新年のご挨拶

第305施設隊長

2等陸佐 山下 秀寿



新年明けましておめでとう
ございます。

旧年中は格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、小戦以下20名につきましては昨年末まで、国連三角パートナーシップ・プログラムに参加し、カンボジア王国において無事任務を完遂し帰国しました。

また、宮地3尉以下15名につきましては昨年末から年を跨いで今年2月初旬まで同じくカンボジア王国において能力構築支援に参加中です。

この海外における二つの任務をこれまで大過なく安全かつ円滑に遂行することができましたのもひとえに協力会、OB会、駐屯地所在部隊及びご家族の皆様のご理解とご協力があってのことと、この場をお借りして重ねて御礼申し上げます。

第104施設直接支援大隊
第2直接支援隊長
1等陸尉 鈴木 卓



新年明けましておめでとう
ございます。

旧年中は、部隊及び所属隊員に対し、平素からご理解とご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

本年は、大隊検閲受閲を目標に真に戦い生存して支援できる部隊となれるよう、隊として一丸となつて努力していく所存です。
皆様の変わらぬご理解とご協力をお願いさせていただき、とともに、皆様にとつて良き年となることを祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

第312基地通信中隊
三軒屋派遣隊長
2等陸尉 田上 一貴



新年明けましておめでとう
ございます。皆様から旧年中に賜りました多くのご支援ご協力に対し、心より御礼申し上げます。

旧年を振り返ると能登半島地震に始まり、記録的な豪雨災害、不安定な国際情勢等激動の年であり、また、我々通信科職種は、通信科から「システム通信科」に改称され変革のある一年でもありました。
本年は、駐屯地の声の窓口であります電話交換業務が一部音声応答になり、ご不便をお掛けすることもあるかと

存じますが、引き続きご理解とご協力をいただけますと幸いです。
皆様にとって実り多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

第132地区警務隊
三軒屋連絡班長
3等陸尉 田村 侑太



新年明けましておめでとう
ございます。

昨年中は警務隊に対する様々な御支援、御協力誠にありがとうございました。
本年も防犯活動に注力し、駐屯地に貢献できるよう日々尽力して参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

出張版
陸自飯
三軒屋食堂

「腹が減っては戦ができぬ」なんて言葉もありますが、訓練や日々の業務に万全の状態を臨むためにも食事は欠かせません。

そこで美味しいと近傍駐屯地では評判の三軒屋駐屯地の食堂メニューをご紹介します。



食欲全開！豚キム子の誘惑
「豚キム子チャーハン」



本場・南国風味で心も満たす
「チキン南蛮」



三軒屋の超新星、爆誕
「ぶたかば丼」



施設隊
陸士長
武田 航

私は現在、陸曹になることを目標として自衛隊生活を送っています。一次・二次試験では多くの方々に支えられ、自分なりの成果を出すことができました。

一言に「陸曹」といっても様々な技能を持った方がいらっしやいます。技術に特化している方、指揮・指導が上手い方、分隊の士気を上げ団結させられる方等それぞれです。私はその中でも技術に特化した陸曹、具体的には通信について詳しくなり頼られるようになりたいと思っています。しかし、現状では経験が少ないため、野営やその準備・整備を通して今後積極的に学んでいきたいと考えています。

この「学ぶ」という気持ちを常に心に刻みつつ、求められたことに応える事で信頼される陸曹になれるよう日々精進していきます。



支処
1等陸曹
羽根 晃

新年おめでとうございます。今年も、巳年で年男を迎えるのですが特に実感がなく気が付いたら4度目になりました。節目には、抱負や目標を掲げてそこに向かって努力を尽くしていくのが一般的であると思います。しかし、私は特に意識しておらず与えられた職務に対し真摯に向き合い出来ることを一所懸命に取り組み組んでおり、特別に抱負や目標といったものは今まで特に立ててきませんでした。

昨年の3月に約6年の単身赴任から異動を機に自宅に戻ることが出来ましたが、その間に子供達は家を出て生活を始めており妻と一人の生活になりました。これからは私生活も充実出来ればと思っていますが残念ながらこれといった趣味がありません。色々試してはいましたが中々、定着しませんでした。これから妻と長く続けられるものを探そうと思っています。次の年男は還暦を迎えるのでそれまでには何か趣味といえるものを見つけるといふ事を抱負として日々精進していこうと思います。

フォトニュース



＜施設＞11月
#3野営訓練（爆破訓練）



＜支処＞12月
期末司令点検



12月 消防訓練



12月 年末行事

直支隊の頼れる力

隊員紹介



第2直接支援隊に所属する九野拓郎2曹を紹介します。

Q 現在の職務は？
A 部品補給陸曹

Q 職務を遂行する上で心がけていることは？
A 即請求

Q 自衛隊での一番印象的な出来事は？
A 格闘の集合訓練（あまりのハードさに首が座らなくなった。）

Q 部隊のやりがいや魅力は？
A 被支援部隊のニーズに応えること。

Q 今後の目標や挑戦したいことは？
A フォークリフト免許の取得

Q 後輩に一言！
A 部品のよとならう（でも！）

UNTPPに参加して

前号でも紹介した、施設隊が今冬活動する二つの国外派遣の内、UNTPPが無事終了。その所感を紹介。前号と併せて読むことを勧める。

施設隊 2等陸曹 白石 時春

私は、令和6年11月9日から12月22日までカンボジア王国で実施された国連三角パートナーシップ・プログラム（UNTPP）に参加しました。カンボジア軍の学校において今後PKOに参加する5カ国16名の学生に対し、6種類の施設機械操作を教育するものであり、今回、私は訓練陸曹として参加し、学生の練度把握や上級部隊への日々報告の作成を実施しました。関西国際空港を発発する際は晩秋でしたが、カンボジアは常夏の国であるため、当初、その気温差に驚きました。そして、カンボジアの人達は南国らしくおらかな性格の人ばかりで、挨拶をすればみんな微笑んでくれます。最初は英語で挨拶していましたが、カンボジアの公用語であるクメール語で挨拶すると満面の笑顔になって喜んでくれました。



開講式でカンボジア王国軍の儀仗隊長と記念撮影する白石2曹（右）

また、週末はアンコールワット等、カンボジアの有名な観光地を巡り、非常に充実した日々を過ごしました。終わってみればあっという間の6週間でしたが、日本では決してできない貴重な経験ができました。是非、また家族と年末年始休暇に旅行したいと思えます。

協力会員の寄稿



協力会員 佐藤まゆみ

初めて三軒屋駐屯地を訪れたのは、今から約24年ほど前。生後半年の息子を連れて家族三人でお花見会に参加しました。

実はこの時、トンビに襲われたハトが、あの広いグラウンドで息子のペビーカーを直撃。すぐに救護班の方がとんで来られて対応。参加者一同「さすが、自衛隊！」と感心したエピソードがありました。

日常生活では、まず、関わるものがなく、遠い存在だった自衛隊。しかし、三軒屋駐屯地に行っただのがきっかけで、厳しい任務に耐え、災害時には人命救助にあたって下

さる隊員の皆様の活動や、「自衛隊員の服務の宣誓」について、三軒屋駐屯地協力会の長峰会長に教えていただき、入会させていただきました。

また、先日の多用途ヘリコプターUH-1H/Jの搭乗体験では、上空から紅葉が見頃の岡山の秋の美しい景色を堪能。ヘリコプターの性能のすごさや、フライトに関わる隊員の方々のお仕事の一端にも触れることが出来ました。安心安全な日常生活を送ることが出来るありがたさ。そのためご尽力下さっている自衛隊の方々に、尊敬の念と感謝の誠を捧げます。



新聞「三軒屋」は協力会員・OB会員の寄稿をお待ちしております。

ご興味のある方は、まずはお電話ください。

電話：086-228-0111（内線2506）

三軒屋駐屯地広報班